ＣＢＤＣ（中央銀行デジタル通貨）に関する関係府省庁・日本銀行連絡会議（第８回）
議事要旨

１．日　　時：令和８年 10 月８日（木）16：30～17：00

２．場　　所：財務省本庁舎４階第３特別会議室

３．出 席 者：

【議　長】

阿久澤　孝　　財務省 理財局長

【構成員】

佐藤　鐘太　　内閣府 大臣官房審議官（経済財政運営担当）　※代理出席
大胡　　勝　　公正取引委員会 事務総局経済取引局長
大濱　健志　　警察庁 刑事局組織犯罪対策部長
井上　俊剛　　金融庁 企画市場局長
室伏　陽貴　　消費者庁 消費者政策課長　※代理出席
森田　　稔　　デジタル庁 総括審議官
長谷川　孝　　総務省 大臣官房総括審議官
坂本　公生　　総務省 情報流通行政局郵政行政部企画課貯金保険室長　※代理出席
猪股　直子　　法務省 大臣官房参事官（民事担当）　※代理出席
吉田　雅之　　法務省 大臣官房審議官（刑事局担当）　※代理出席
緒方　健太郎　財務省 国際局長
松本　　圭　　厚生労働省 雇用環境・均等局長
小林　大樹　　農林水産省 経営局長
正田　　聡　　経済産業省 商務・サービス政策統括調整官　※代理出席
神山　一成　　日本銀行 理事

【オブザーバー】

小川　久仁子　個人情報保護委員会 事務局審議官

４．議　　事：

（１）一般利用型ＣＢＤＣに関するこれまでの議論について
（２）「パイロット実験」の進捗状況について
（３）今後のスケジュールについて

５．議事要旨：

○　開会に際し、議長より挨拶が行われ、以下の発言があった。

・　諸外国の動向も注視しながら、我が国の実情や利用者のニーズを踏まえた検討を着実に進める必要がある。

・　今後の連絡会議及び課長級の幹事会では、中間整理・第２次中間整理・進捗報告に基づき、制度設計の大枠の整理に向けて、更に検討が必要な課題について、論点を絞って議論を深めていきたい。

・　検討にあたっては、昨事務年度示したＣＢＤＣの目的・意義をより一層意識しながら議論を深めていきたい。

○　その後、議事（１）「一般利用型ＣＢＤＣに関するこれまでの議論について」において、一昨年４月に行った「中間整理」、昨年５月に行った「第２次中間整理」及び本年６月に行った「進捗報告」の内容について、資料１に沿って事務局より説明した。

○　議事（２）「『パイロット実験』の進捗状況について」に際して、冒頭、日本銀行理事より挨拶があり、以下の発言があった。

・　決済をめぐる内外の環境は目まぐるしく動いており、特にブロックチェーン技術を活用した決済高度化の動きがグローバルに見られる。

・　ＣＢＤＣについても各国がそれぞれの事情に応じた対応を行っている中、わが国では、リテール決済分野では依然として現金も広く受け入れられているものの、いつまでも現在のように受容され続ける保証はなく、ユニバーサルアクセスといった部分を補完するものとして、ＣＢＤＣの必要性が高まる可能性もある。

・　日本銀行として「現時点でＣＢＤＣを発行する計画はない」、「現金に対する需要がある限り、現金の供給についても責任をもって続ける」という基本的な考え方に変更はないが、さまざまな未来に備えるという認識のもと、パイロット実験を実施しており、今年６月には、これまでの議論をとりまとめたレポートを公表している。

その後、資料２に沿って日本銀行より説明した。

○　議事（３）「今後のスケジュールについて」において、以下の点について、関係府省庁・日本銀行で一致した。

・　「中間整理」及び「第２次中間整理」に基づき検討を深め、制度設計の大枠の整理に向けて、より実務的な議論を行う観点から、引き続き、本連絡会議の下に各府省庁及び日本銀行の職員をもって構成する「関係府省庁・日本銀行連絡会議幹事会」を開催し、議論を進めていくこと

・　今後のスケジュールとして、資料３のとおり幹事会での議論を踏まえ、来年の春を目途として、本連絡会議に報告する方向で進めていくこと

○　その他、以下の発言があった。

・　将来的なクロスボーダー決済での利用可能性を見据えた他国の決済システムとの相互運用性や、円の安定性・利便性を高める観点も念頭においたＣＢＤＣの検討が必要。

・　国際的な潮流と乖離しないよう、諸外国の動向をより一層注視しながら議論を深めて

いきたい。